

竹富町が観光立町宣言

豊かな自然、文化アピール

【竹富】日本最南端の町・竹富町は21日に同町竹富島で開かれた海開きで、「島の宝を守り育て、島人も旅人も共に幸せになれるまちづくりを通し、豊かで誇りある世界を、子孫の代まで受け継ぐ」と観光立町を宣言した。

マスケットにヤマネコ

同町は赤瓦と白砂の家並みが残る竹富島、亜熱帯の手つかずのジャング



キツコトを発表する竹富町長西見大輔(左)と、竹富島観光課長川崎康平(右)が、竹富島の観光立町宣言を祝う。

ルに覆われた西表島、日本最南端の有人島波照間島など個性あふれる九つの有人島からなる。県八重山事務所によると、2009年は各島々に計94万6千人が訪れた。宣言は、町がこれまで一年以上かけて各島々や観光業者と町観光の在り

方や地域振興について話し合い、まとめた。

川崎康平町長は「観光は総合産業で第1次産業も元気になる。観光にふさわしいまちづくりをしながら、みんなが幸せになれる竹富町をつくる」と決意を述べた。

同日、町は町内の小学(百初音さん(12)の作品が選ばれた。

生から募集した町マスケットキャラクターを発表し、45作品の中から西表島だけに生息する国の特別天然記念物イリオモテヤマネコをかかわいらしくデザインした町立古見小学校(西表島)6年の屋ほ笑んだ。